

## 吉田中学校 2学期学校評価まとめ

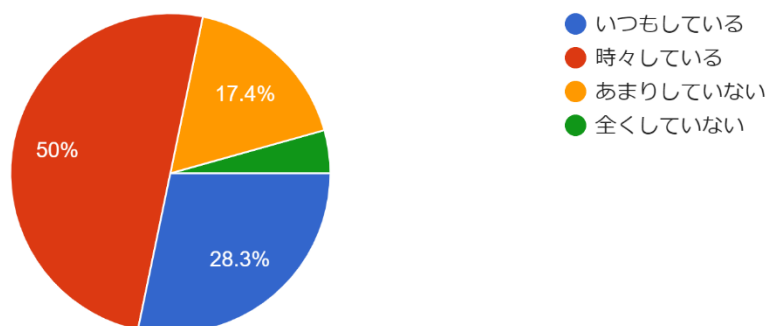
### 教育目標「かかわり みつめ 切り拓く生徒」

当校が見据える最終的な目標は「ふるさと吉田を愛し自立して社会で生きる人」の育成です。この目標の実現に向けて、キャリア教育を基盤に位置付け、地域と連携した小中一貫教育により様々な教育活動を展開しています。これからの時代の「創り手」である子どもの教育には、現状を維持するのではなく、新しい価値や考え方を生み出し、予測不能な社会を生き抜く力を身に付けさせることが必要だと考えます。

また、変わりなく大事にするものを、「知育」・「徳育」・「体育」の三本柱とし、保護者、地域住民の理解と協力を得ながら教職員一丸となって取り組んでいます。アンケート等により結果を分析・評価し、今後（次年度）の教育活動の修正と改善について提言します。 ※ 数値（ ）内は、1学期との比較

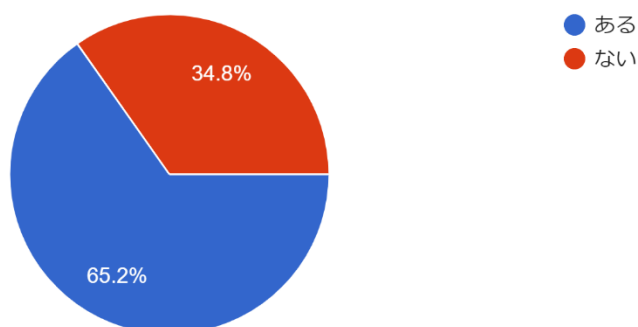
### キャリア教育の視点から

9-2 そのやり方などについて振り返り、改善に向けて努力していますか。（評価・改善する力）  
46件の回答



肯定的な回答 82.6% (-2.2 割) 毎日の終学活時のPT（プランニングタイム）を引き続き大切にして指導支援を継続します。

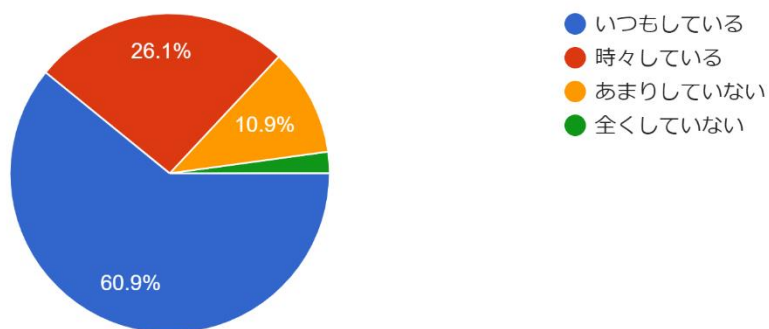
11 自分の将来について、具体的な夢や目標がありますか。  
46件の回答



肯定的な回答 65.2% (-2.2 割) 引き続き、進路学習を中心に、役割（キャリア）や責任を担うことなどについて学習していきます。さらに、※アントレプレナーシップ教育の推進にも力を入れていきます。※アントレプレナーシップ教育：失敗を恐れず、新たな価値やビジョンを創造できる人材育成のこと。

### 13 地域のよさを理解し、愛着や感謝の気持ちをもっている。

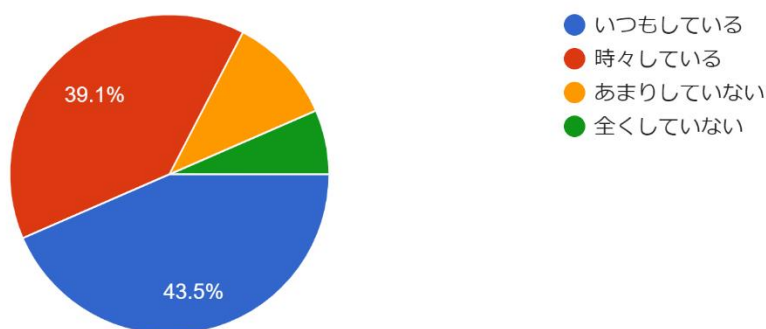
46 件の回答



肯定的な回答 87.0% (-2.2 点) 約 9 割の生徒が地域に愛着を持っています。地区民体育祭、YOSHIDA 祭等での地域との協働のあり方も整理・検討し次年度を迎えます。

### 15 自分のできることで、地域に貢献しようとしている。

46 件の回答

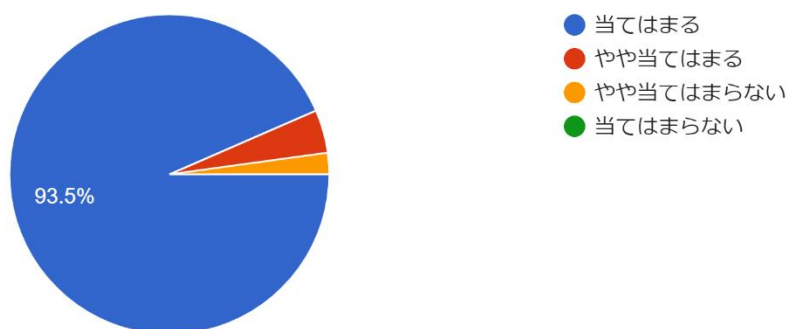


肯定的な回答 82.6% (+2.2 点) 肯定的な回答、特に「いつもしている」の回答が 8.7 点向上しました。2 学期の学校行事や総合的な学習の取組の結果だと感じます。地域と学校が互惠性のある関係になるよう一層、取組を推進し、生徒が地域に貢献したいと思えるような取組を工夫します。

## いじめについて

### 9 いじめは、どんなことがあっても許さない。

46 件の回答



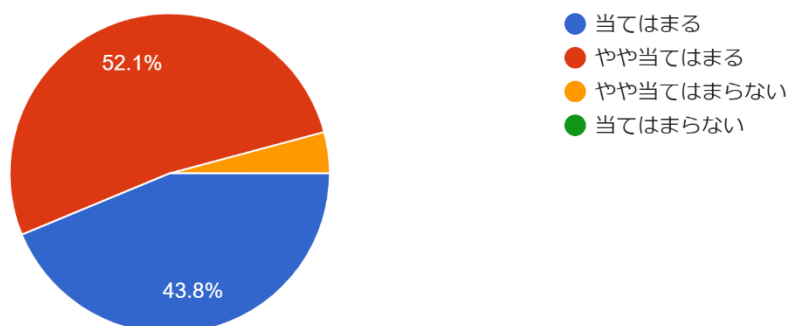
肯定的な回答 97.8% (+0 点) 2 学期いじめ認知件数 2 件

11 月を人権強調月間と位置づけ、人権教育、副読本を活用した同和教育を実践しました。引き続き、いじめは深刻な人権侵害という認識のもと、次年度も人権教育、同和教育を充実させます。

## 保護者アンケートから

2 学校は、保護者や地域の願い・要望を受け止め、誠意をもって対応している。

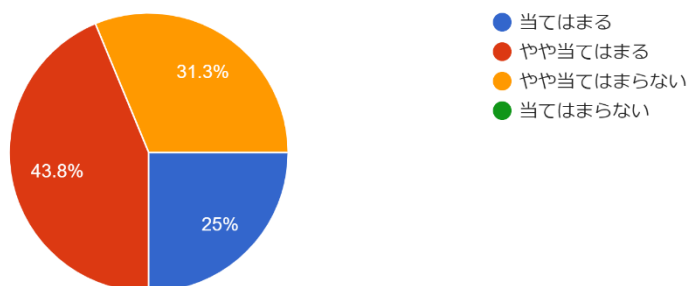
48 件の回答



肯定的な回答 95.9% (+2.6 ポイント) 1学期に引き続き、高評価をいただきました。今後も、個に応じた指導や保護者面談等を通じ、一人一人に寄り添った指導支援を行います。

12 インターネットの利用について約束や決まりを設定し、守るように家族で話している。

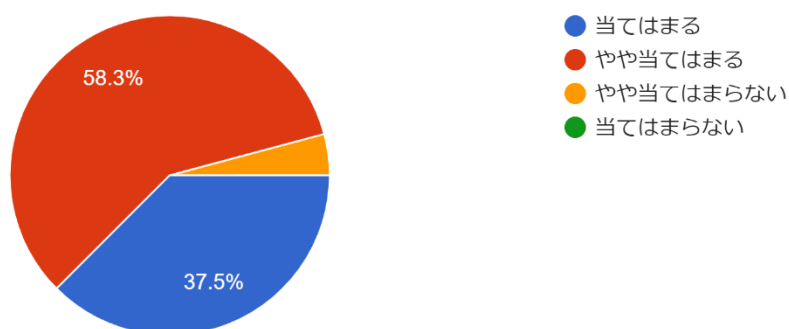
48 件の回答



肯定的な回答 68.8% (-6.7 ポイント) 下降傾向にあります。本年度は、基本的な生活習慣の見直しと、睡眠時間確保の視点に重きを置いて取り組んでいます。

14 学校は小中一貫教育において、保護者・地域住民と一体となった活動に努めていますか。

48 件の回答



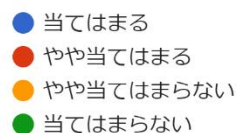
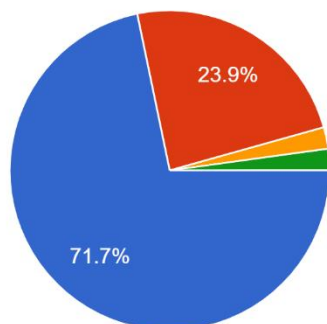
肯定的な回答 95.8% (+6.9 ポイント) 中学校区教育振興会「知」・「徳」・「体」部会の取組がやや停滞しています。計画→実践→反省、次の計画という流れが定着するよう、次年度に向けて準備します。引き続き、吉田地区の子どもの望ましい育ちや学びの連続性について研修を深めます。

## 授業改善の視点から

### ◇授業に対する生徒の意識調査

#### 4-1 好きな授業、または得意な教科がある。

46 件の回答



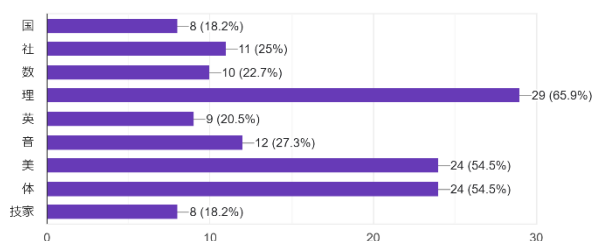
肯定的な回答 95.6% (-2.2 歳)

1 学期同様に高評価になりました。単元構想、対話的な学び、ICT の活用などにより、生徒の学習意欲を引き出したものと推察します。引き続き、生徒が主役の授業づくりを推進していきます。

教科別に見ると、理科が秀でており、次いで美術、保体の順になりました。

#### 4-2 好きな教科を選んでください。(複数可)

44 件の回答

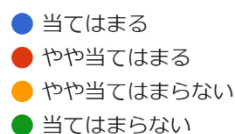
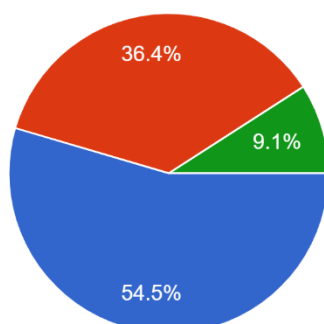


### ◇授業に対する教員の意識調査

9

各種テストの結果や生徒の学びの様子を基に、自身の授業を振り返り、授業力を向上させている。

11 件の回答



肯定的な回答 90.9% (+9.0 歳) 子どもが多く時間を過ごす授業は、教育活動の中核であり、授業を大切にする意識は、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援にもつながります。また、道徳、特別活動、人権教育、同和教育などの教科以外の領域も同様です。本年度は、教員同士の教科の授業実践や人権教育の公開授業を通して授業改善に取り組んでいます。引き続き、子どもの学習意欲を引き上げ、確かな学力を身に付けさせるための授業改善に努めてまいります。

## 【知部会】 2学期の振り返り

### 1 各種アンケート等から見た一次評価

| 成果目標   | 結果及び評価   |
|--|--|
| ① 学力の一層の定着<br>数値目標＝「NRT の教科平均値が前年度を上まわった生徒」70%以上     | 結果 25.0%（1年生は除く）<br>2年生（25%）<br>3年生（25%）<br>評価 現3年生は昨年度も42%程度であったので、数値目標を見直す必要がある。50%以上か。教科別で見ると、理英は6割、国数社は3割程度の生徒が前年度を上回っている。 |
| ② 目的をもった計画的な学びの実現<br>数値目標＝「家庭学習を計画的に進めている」肯定的回答80%以上 | 結果 86.9%（昨年度 80.4%、1学期 91.3%）<br>当てはまる 39.1%、やや当てはまる 47.8%<br>評価 肯定的な回答が多い。<br>「当てはまる」は変わらず。「やや当てはまる」は1学期より2名減                 |
| ③ 学ぶ姿勢の定着<br>数値目標＝「好きな授業、得意な教科がある」肯定的回答80%以上         | 結果 95.6%（昨年度 91.3%、1学期 97.8%）<br>当てはまる 71.7%、やや当てはまる 23.9%<br>評価 肯定的な回答が非常に多かった。<br>教科としては理科、美術、体育が多い。                         |

### 2 取組から見た一次評価

| 取組                                 | 結果及び評価（生徒の変容等）  |
|------------------------------------|---|
| ① プランニングタイム                        | 結果 フォーサイトの記入が定着している。<br>評価 複数の予定に対して、優先順位をつけることができるようになると尚よい。   |
| ② Web 診断問題                         | 結果 全国平均に比べて以下のとおり<br>国語 1年+0.6 2年+0.7 3年+0.2<br>数学 1年+0.0 2年+0.2 3年-0.7<br>英語 1年-1.2 2年-0.8 3年-1.8<br>評価 全ての回で実施ができています。引き続き実施・継続をしていく。 |
| ③ 宿題（自主学習）について<br>各教科のNRTで課題と宿題の提示 | 結果 NRTを意識しているとはいえない。<br>評価 宿題連絡用ホワイトボードの活用が定着   |

### 3 3学期（次年度）以降の取組・対策

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の確認テストに対する取り組みへの指導だけでなく、実施後の振り返りを確実にを行う指導も行う。また、フォローアップシートの活用方法も併せて紹介する。</li> <li>・ 放課後学習支援で数学の個別の学習支援を行う。</li> <li>・ 各種検定の受検を促し、学習意欲の高揚を図る。</li> </ul> |
|--|

## 【徳部会】2学期の振り返り

### 1 各種アンケート等から見た一次評価

| 成果目標   | 結果及び評価  |
|--|---|
| ①交流を通じた自己肯定感の育成<br>数値目標＝「自分にはよいところがある」<br>【肯定的回答 80%以上】                              | 結果 78.3%（1学期：86.9%）<br>当てはまる 32.6%<br>やや当てはまる 45.7%<br>やや当てはまらない 13.0%<br>当てはまらない 8.7%<br>評価 肯定的回答が1学期をやや下回った。「当てはまる」の割合に変化はないが、「やや当てはまる」の割合が減り、「当てはまらない」の割合が増えた。 |
| ②違いを良さと捉える人権感覚の醸成<br>数値目標＝「仲間のよさや個性を認め、協力し合いながら、学級活動、委員会、部活動に取り組んだ」<br>【肯定的回答 80%以上】 | 結果 97.8%（1学期：97.8%）<br>当てはまる 73.9%<br>やや当てはまる 23.9%<br>やや当てはまらない 2.2%<br>当てはまらない 0%<br>評価 肯定的回答の割合に変化はないが、「当てはまる」の割合が若干減り、その分の「やや当てはまる」の割合が増えた。                   |

### 2 取組から見た一次評価【2学期】

| 取組           | 結果及び評価（生徒の変容等）  |
|--------------|---|
| ①小中合同あいさつ運動  | 前回よりも、中学生が小学生とより積極的に関わりながら、活動を行うことができた。   |
| ②人権について考える集会 | 相手が嫌だと感じる呼び名で呼ぶ事案が起きたことを受けて、全校で「人権とは何か」、「いじめの定義」、「本当の仲間とは何か」ということについて、全校で考え、学び、共通理解をすることができた。 |
| ③人権教育、同和教育   | 校外学習「いのち・愛・人権展」を通して、部落差別に関する資料を見て、その具体的な内容を学ぶことができた。そして、その学びを「生きるIV」を用いた学習に生かすことができた。         |

### 3 3学期（次年度）以降の取組・対策

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人に役割を与え、それぞれが活躍する場面を意図的に設定する。さらに生徒の取組の過程や成果を、生徒同士で認め合ったり、教職員が生徒を認めたりする。</li> <li>各学年の実態に合ったソーシャルスキル・トレーニング（学級ソーシャルスキル CSS 参考）を学活等で実施する。</li> </ul> |
|--|

## 学校評価【体部会】 2学期の振り返り

### 1 各種アンケート等から見た一次評価

| 成果目標  | 結果及び評価  |
|---|---|
| ①自己管理能力向上<br>数値目標＝「規則正しい生活を送り、自分の健康管理に努めた」<br>【肯定的回答 80%以上】 | 結果 76.1% （1学期：82.6%）<br>当てはまる 34.8%、やや当てはまる 41.3%<br>やや当てはまらない 17.4% 当てはまらない 6.5%<br>評価 1学期と比較すると肯定的回答をした生徒が減少した。メディア機器のルールについても同様の結果であるため、帰宅後の時間の使い方について課題があると考えられる。ただし、体調不良を訴える生徒は極めて少なく、健康的に学校生活を送ることができている。 |
| ②体力の向上<br>体力テスト課題種目の改善に向けた具体的な取組の実施                         | 結果 体力テストの課題種目（握力、長座体前屈、立幅跳、ハンドボール投げ）の改善に向けて、体育の授業の中で関連する動きやトレーニングを実施した。（柔道…握力、ハンドボール投げ・立幅跳…バドミントン、器械運動…長座体前屈）<br>評価 継続していくうちに動きがスムーズになり、力を発揮するコツをつかんだ生徒が増えた。2月、課題種目の計測を再度実施する。                                  |

### 2 取組から見た一次評価

| 取 組                 | 結果及び評価（生徒の変容等）  |
|---------------------|---|
| ① 小中陸上交流会           | ねらいを記録向上だけにせず、小中間の関わりの大切するようにした。吹奏楽部や野球部の生徒たちにもスポットが当たり、自己有用感を感じる生徒が増えた。  |
| ②TKGs プロジェクト（応援団主催） | TKGs プロジェクトのねらいを明確にするため、今年度の結果をグラフ化し、全校生徒が課題意識をもてるようにした。  |
| ③1年生生活習慣に関する指導（睡眠）  | 結果 1年生で睡眠の役割について「脳の働き」と「より良く生きる」という視点で授業を行った。<br>評価 感想には「〇〇のために睡眠時間を確保したい」と明確に記述されていた。「今まで睡眠のことを考えたことがなかった」という振り返りもあり、知識の習得と意欲につながった。 |
| ④生活習慣の振り返り（アンケート）   | 結果 生活習慣とインターネットメディア利用のルールと使い方について具体的に振り返りができた。<br>評価 インターネットメディア利用のルールと自身の使い方について意識する機会になった。  |

### 3 3学期（次年度）以降の取組・対策

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の振り返り（アンケート）を実施して実態把握に努める。</li> <li>・次年度に向けて生活習慣に関する取組について計画を見直す。（生活習慣アンケート、「わが家のメディアルール」取組）</li> </ul> |
|---|